

## 進捗状況の概要（2ページ以内）

## ① 大学改革の加速

平成30年度は、e-ポートフォリオを活用した、学習成果の観点別成績評価結果を踏まえ、個々の学生に対する面談カウンセリングの実施を通して、学期毎の学生の学習成果の修得状況（自己評価）が精緻に把握されるとともに、それらの情報は教職員間で共有されることにより、個別かつ継続的な支援が行われた。特に個々の学生のデータ蓄積が進んだことにより、個別支援の向上が図られるとともに、データの分析を通して、本学の学位プログラムの傾向及び課題が顕現化し、エビデンスに基づいた修正が可能になるなど、PDCAに基づいた改革が進んだ。また、現場体験プログラム（インターンシップや現場体験等）で得られた学習成果についても、e-ポートフォリオに定性的評価として継続的に蓄積され、精緻に把握された学習成果の修得状況を踏まえた指導が展開された。これら定量的、定性的な学習成果修得状況は、個々の学生単位に「ディプロマ・サプリメント」として集約・発行できるようになった。「ディプロマ・サプリメント」については、その有効的な活用方法を探るため、就職先へのニーズ調査依頼と併せて、就職先向けに発行したが、令和元年度の既卒者訪問プログラムにより、ヒアリング調査を実施する予定である。アドミッション・ポリシー関連では、高校生に対する保育体験プログラムを実施し、出張講義だけでなく、本学「あかちゃんひろば」での体験プログラムも展開することで、高校生の専門職への理解と意欲がより高まった。アセスメントとしては、既卒者訪問プログラムにおいて、平成29年度末に卒業した本学新規就職者の学習成果に応じた資質能力形成状況が確認されるとともに、本学の学位プログラムの傾向及び課題も同様に把握された。また、入学時・卒業時のジェネリックスキル測定（PROG）においても、入学時データからは、面談カウンセリングの際の基礎データとして、卒業時については、資質能力の形成傾向が確認され、ジェネリックスキル修得状況についての基礎データを得ることができた。更に、専門職養成を主とする大学、他のAP採択大学への訪問、他大学主催のシンポジウムで成果発表、AP評価委員会の開催等を通して、多くの助言を得て、取組改善及び次年度の取組計画の見直しができ、本取組成果の一層の向上を図ることができた。

## ② 事業の実施体制

全学一体として本取組の遂行に当たるため、学長を長とし、各学科教員、事務担当者も含めたAP推進委員会を設置し、全体進行の進捗状況を定期的に確認（毎月）するとともに、他の学内各委員会と連携して取組を遂行している。また、評価母体である、AP評価委員会においては、年度末に取組全体および各プログラムについて評価・提言を受け、次年度の取組に反映させている。

## ③ 事業の実実施計画・継続性

本取組は、AP評価委員会を経た「成果と課題」に従い、取組自体を発展させているが、補助事業終了後においても、同様に取組を展開すべく、予算措置がなされている。また、本学の改組転換（令和元年度入学生を以て募集停止、令和4年度の4年制学部開設に向けて、令和3年度に設置申請予定）における継承教育機関において、本取組内容を基盤とした教育プログラムが展開される予定である。現在、「児童教育学部（仮称）設置準備室」が設置され、その中心に本取組の中核教員が配置されている。本取組での各活動は、内容を高度化した上、発展継承される予定である。

## ④ 事業成果の普及

本取組の先駆的な点（学習成果の観点別成績評価、面談カウンセリング等により学習成果の向上を体系的に推し進める点）を他大学主催のシンポジウム等にて積極的に発信した。また、それらの成果を年次報告書（全77頁）にまとめ、全国の大学に発信した。

## ⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

本取組を通して、特徴や課題が定量的にも、定性的にも顕現化したことで、学内の各委員会による有機的棚課題対応力が向上し、3つのポリシーを踏まえた、総合的な大学教育改革が促進された。